

平成27年6月16日

平成27年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第2号） 縞葉枯病（技術情報第2号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 少 並 並 並 並 並	並 少 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） ハダニ類	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 やや多 並 並	並 並 やや多 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 並 並	並 並 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 並	並 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや多 並 並	やや多 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや多 並 並 並 並 並 並	やや多 並 並 並 並 並 並

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率0.0%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、初発生を確認した。発病株率は0.0%であった（発生を認めない）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページ参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 6月8日以降、県南部地域において葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が多いので注意する。

イ 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	巖原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	●	—	●	—	—	—	—	1	1	●
6月9日	—	?	—	—	—	1	1	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	●	—	—	—	—	1	—	4	—	●
6月12日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	●	—	—	—	—	—	—	●
6月15日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	●

発生指標	?:判定不能	—:好適条件なし	1:準好適条件1	2:準好適条件2	3:準好適条件3	4:準好適条件4	●:好適条件
------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	--------

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率0.0%、発病株率0.0%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成27年6月16日付け病害虫発生予察技術情報第2号による。

## 2. ツマグロヨコバイと萎縮病

### (1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並  
萎縮病 並

### (2) 予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地（2地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0%）であった。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.03頭（0.1頭）、発生圃場率は24.4%（23.2%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は3.5頭（1.8頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

## 3. セジロウンカ、トビイロウンカ

### (1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並  
トビイロウンカ 並

### (2) 予報の根拠

ア セジロウンカは、5月15日に予察灯（諫早市）で初確認した。トビイロウンカは、6月16日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は73.2%（25.4%）であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は3.0頭（1.1頭）であった。トビイロウンカは発生を認めなかった（発生を認めない）。

### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

## 4. コブノメイガ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 6月4日にフェロモントラップ（諫早市）で誘殺を初確認した。

イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生は認めなかった（早期水稲：食害株率0.0%、10㎡当たり成虫数0.0頭）。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、食害株、成虫及び幼虫の発生は認めなかった（食害株率：0.03%、成虫の10㎡当たり虫数0.0頭）。

### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は3.7%(7.6%)、発生圃場率は12.1%(43.0%)であった。

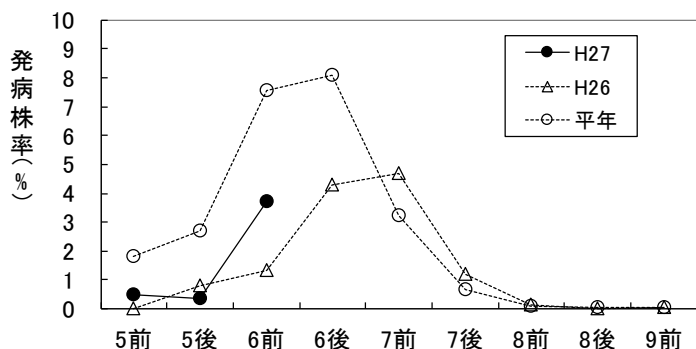


図 うどんこ病 発病株率の推移

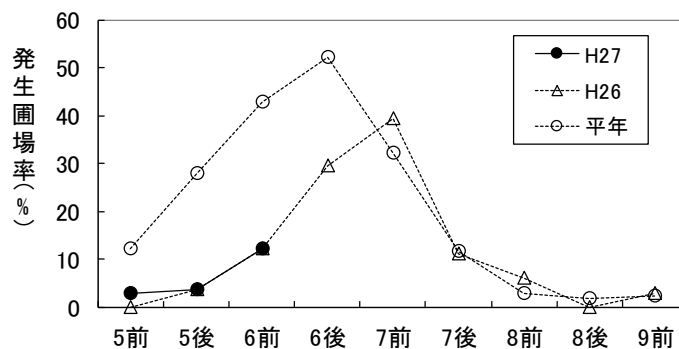


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 雨よけ施設がある育苗床では雨よけを行う。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は4.3%(2.1%)、発生圃場率は45.5%(23.9%)であった。

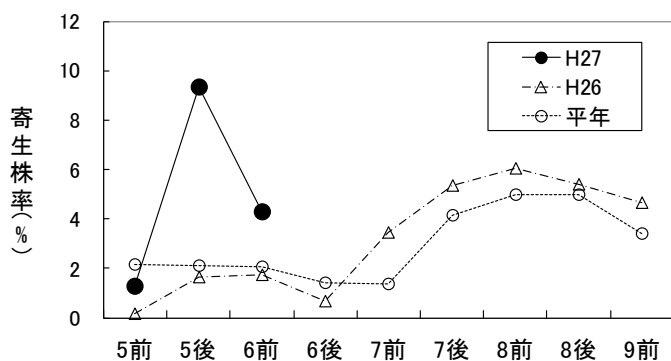


図 ハダニ類 寄生株率の推移

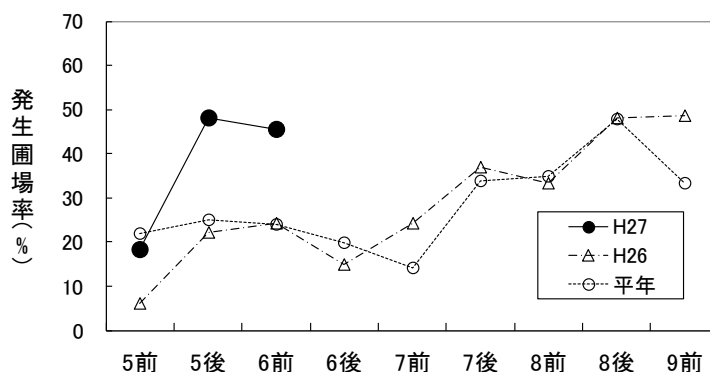


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃への持込みを避けるため、定植までの防除対策を徹底する。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

## アスパラガス

### 1. アザミウマ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は14.5頭(過去8カ年平均24.4頭)、発生圃場率は66.7%(過去8カ年平均76.0%)であった。

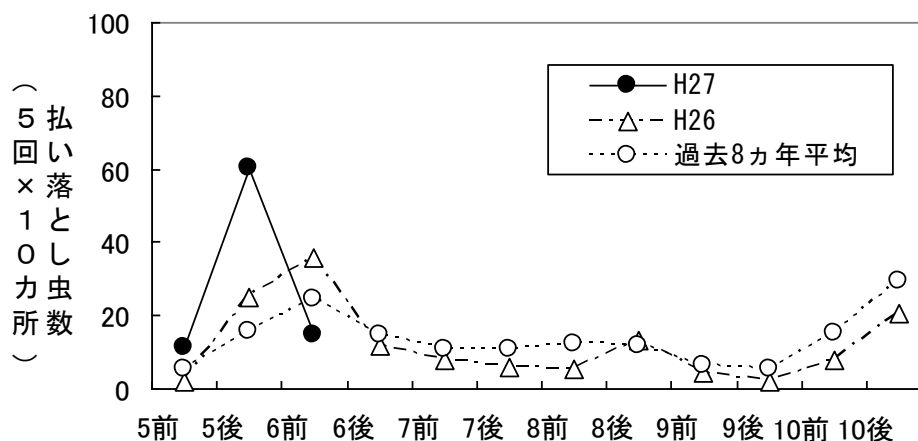


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)  
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

## かんきつ

### 1. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は2.8%(6.8%)であった。

### 2. 黒点病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は14.6%(6.0%)、発生圃場率は58.3%(43.5%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は少ない見込みである。

### 4. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。

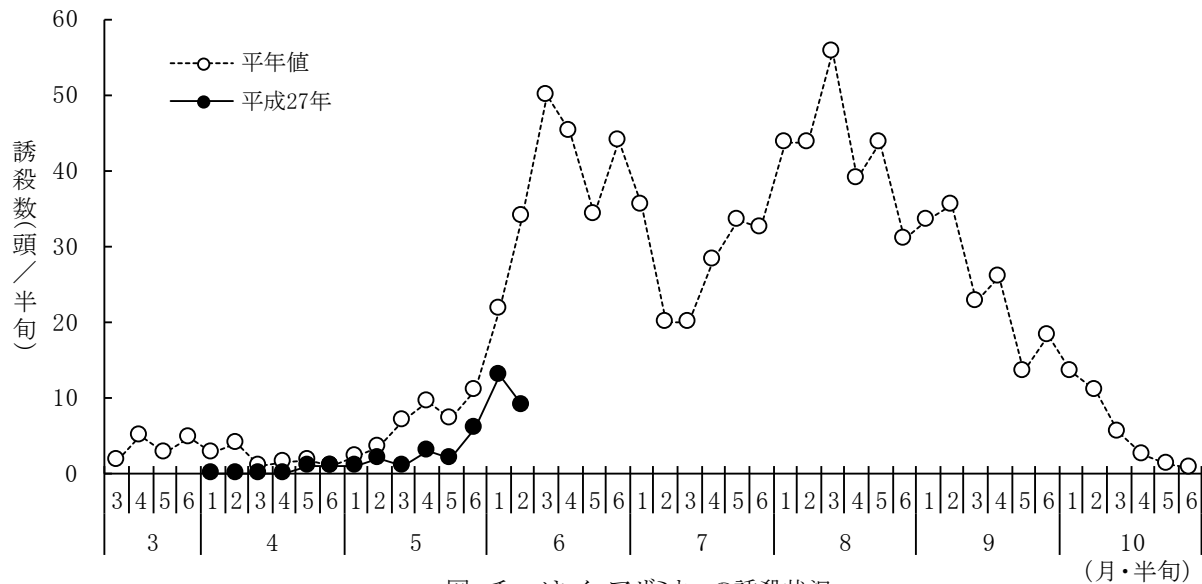


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況  
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は下表のとおりである。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第2世代	6/4	6/4	6/13	6/5	6/17	6/9
〃 (前年)	6/3	6/5	6/11	6/5	6/15	—
第3世代	6/28	6/28	7/6	6/29	7/10	7/1
〃 (前年)	6/28	6/30	7/8	7/1	7/10	—
第4世代	7/17	7/18	7/26	7/17	7/29	7/20
〃 (前年)	7/19	7/20	7/28	7/21	7/30	—
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2015年6月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

## 5. ヤノネカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率0.0%、発生圃場率0.3%)。

### (3) 防除上注意すべき事項

気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した初発生の予測日ならびに各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/6	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/9	5/7	5/9	5/11	5/8
前年予測日	5/5	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/8	5/6	5/9	5/10	—
IGR剤防除日	5/31	6/2	6/1	5/31	6/1	5/31	6/3	6/3	6/1	6/3	6/5	6/2
有機リン剤防除日	6/15	6/17	6/16	6/15	6/16	6/15	6/18	6/18	6/16	6/18	6/20	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.8%(1.3%)、発生圃場率は30.0%(47.5%)であった。

### 2. 灰斑病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は3.8%(7.2%)、発生圃場率は90.0%(75.0%)であった。

### 3. ナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率3.8%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している(図)。

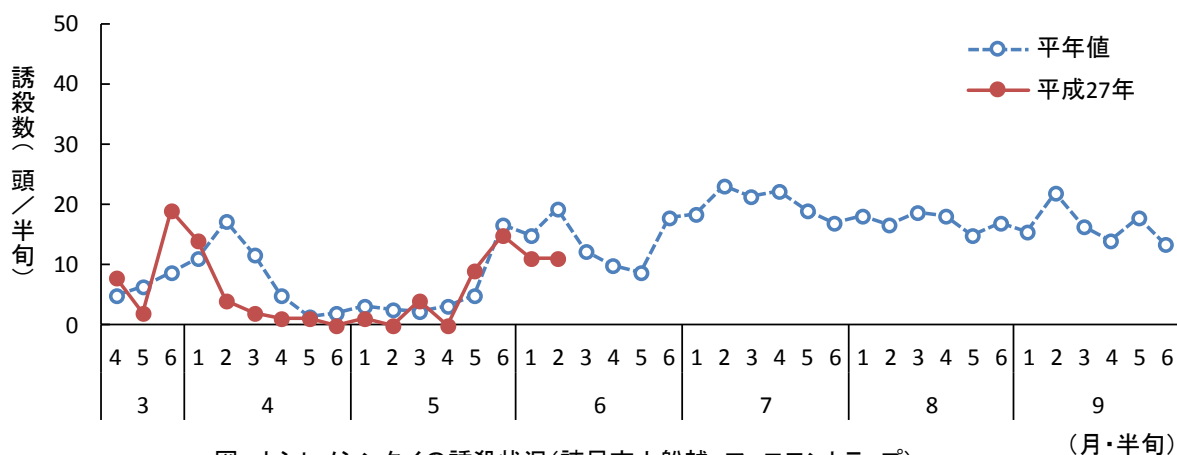


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早市小船越、フェロモントラップ)

なし

### 1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.1%(0.7%)、発生圃場率は41.7%(40.5%)であった。また果実では、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(7.7%)であった。

### 2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

### 1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は16.7%(3.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌の発生に注意し、同一系統の薬剤を連用しない。

### 2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並



(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は1.7%(0.1%)、発生圃場率は16.7%(10.4%)、また果房では、発病果房率は7.5%(0.0%)、発生圃場率は16.7%(3.1%)であり、一部多発圃場が見られた。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害果房率0.4%、発生圃場率10.4%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(かんきつの項参照)。

**果樹共通**

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、各地域で平年並に推移しているが、西海市西彼町では5月6半旬に一時的に増加した(下図)。

イ 6月上旬の巡回調査の結果、かんきつ、なしおよびびわ圃場への飛来を認めなかった。

ウ 病害虫防除員の報告によると、一部地域のなし園で、やや多い発生が認められている。

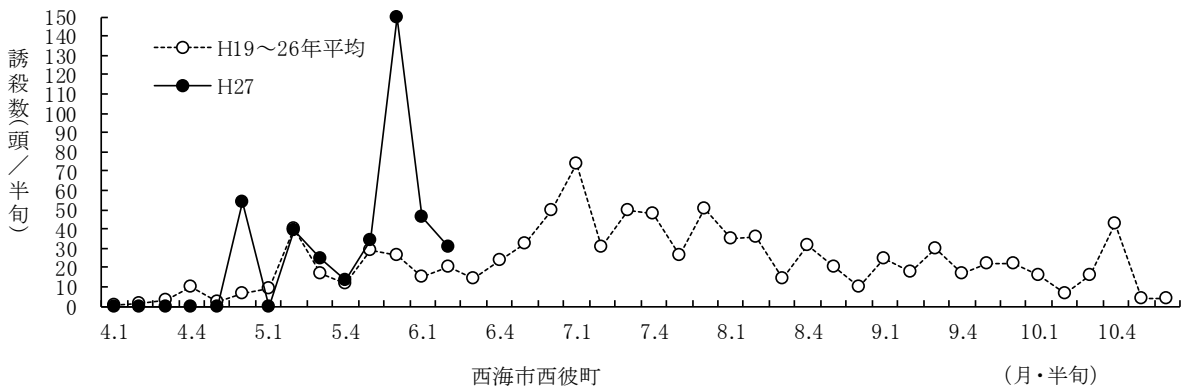
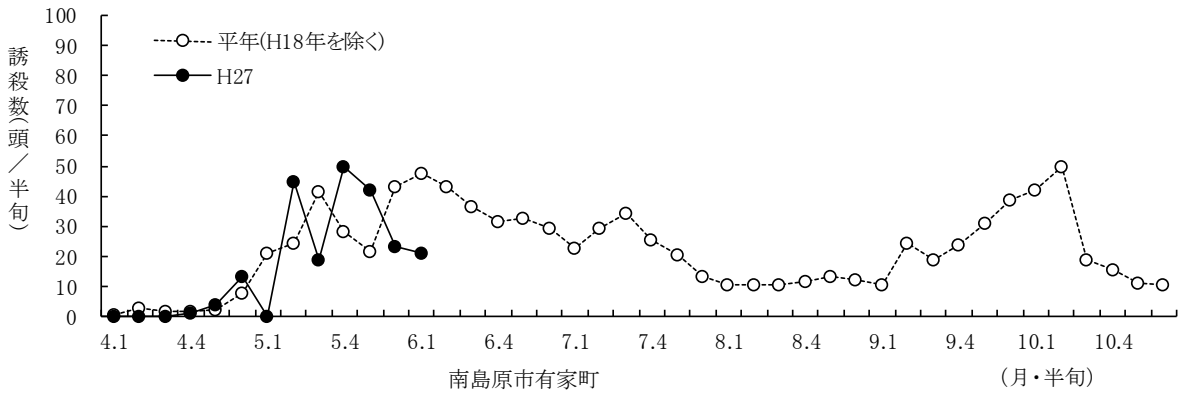
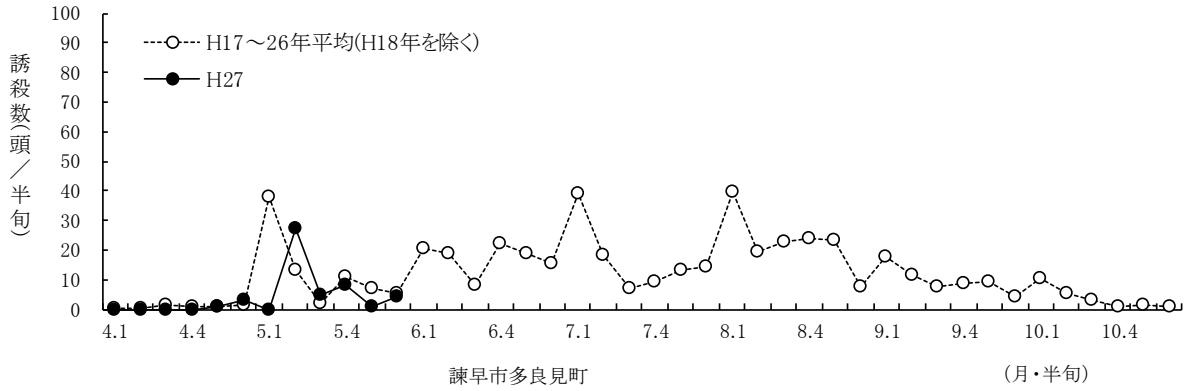
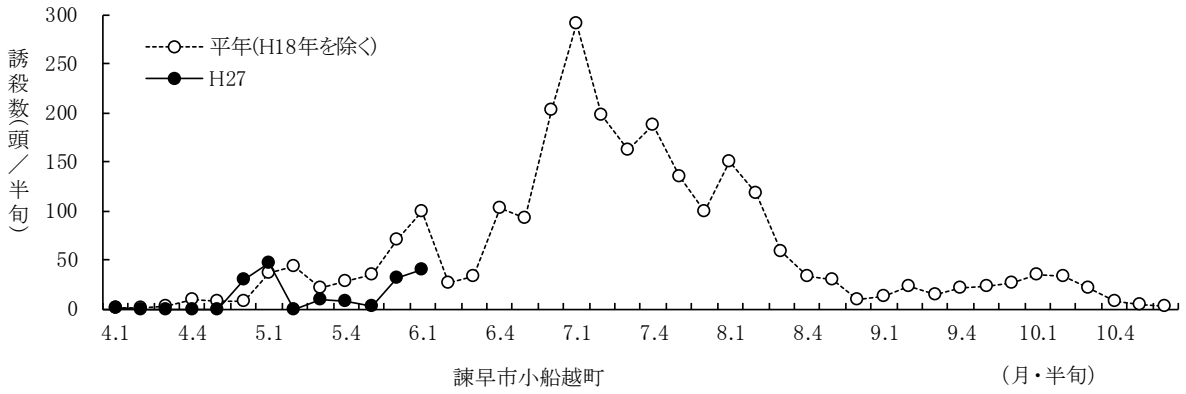


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は4.5枚(0.3枚)、発生圃場率は65.0%(17.5%)で、一部多発圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は13.9頭(28.7頭)、発生圃場率は100.0%(87.5%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率3.1%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月2半旬にピークが見られ、ほぼ平年並で推移している(図)。

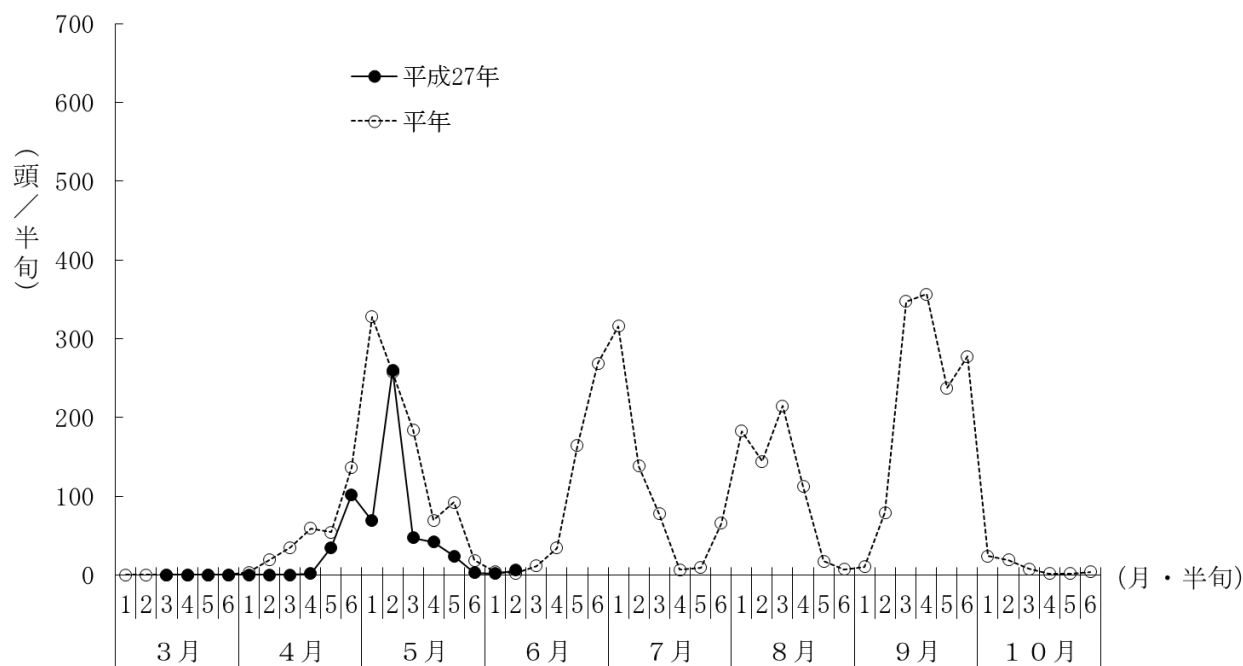


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率5.6%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、ほぼ平年並で推移している(図)。

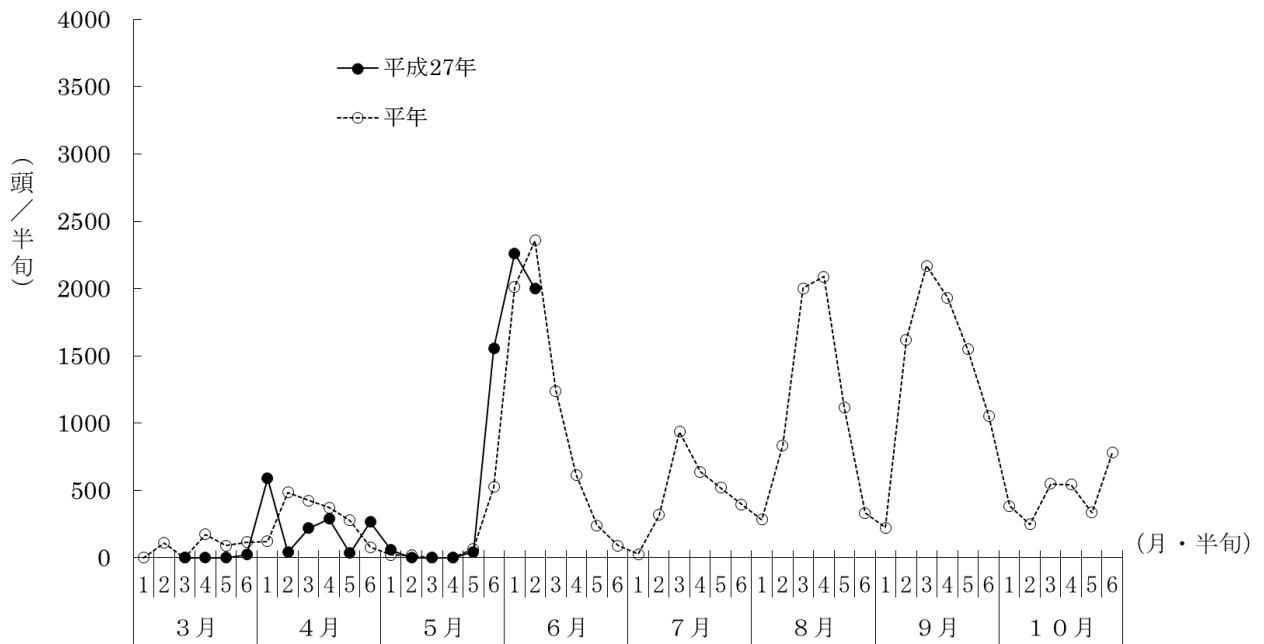


図 チャノホソガの誘殺状況 (東彼杵：フェロモントラップ)

#### 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は3.3%(2.7%)、発生圃場率は30.0%(22.5%)であった。

#### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.6頭(3.0頭)、発生圃場率は55.0%(57.5%)であった。

#### 7. クワシロカイガラムシ

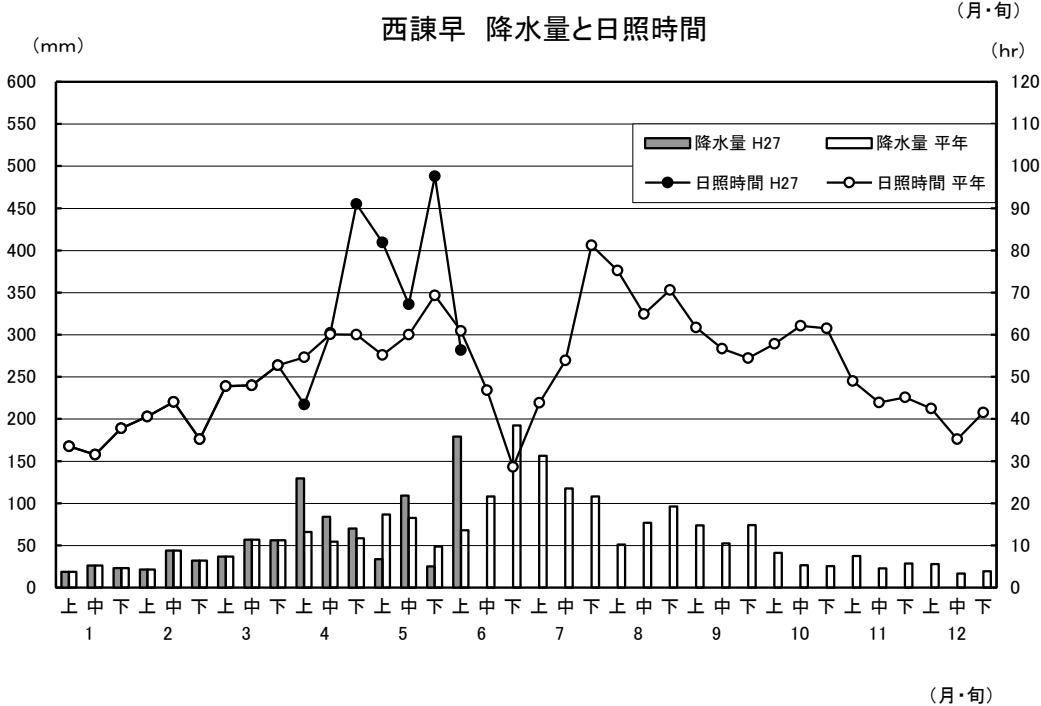
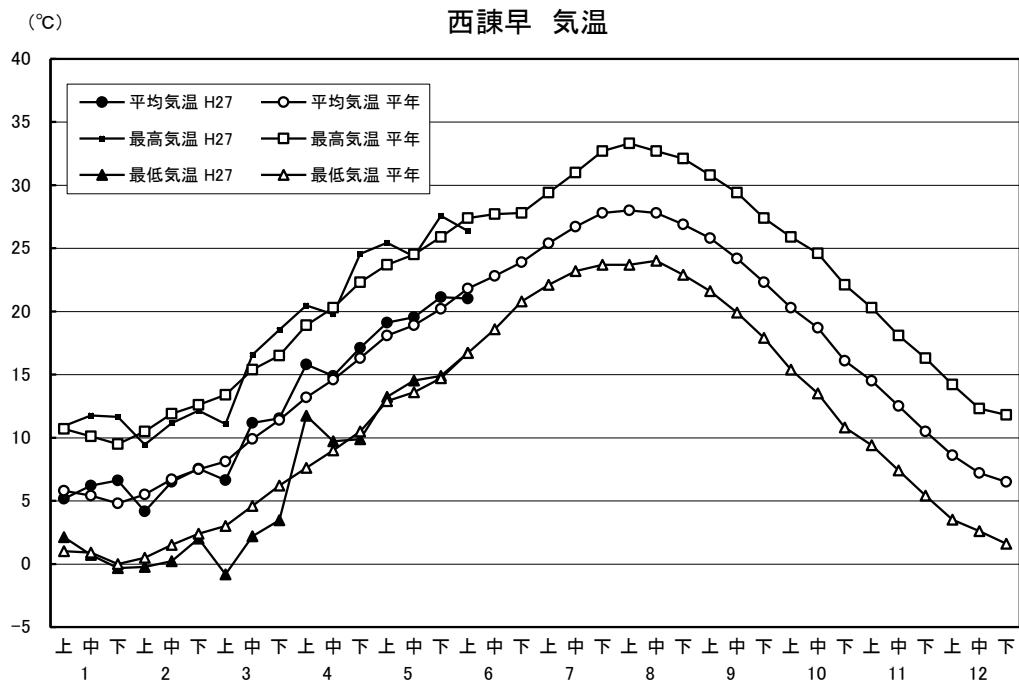
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は6.0%(6.9%)、発生圃場率は35.0%(38.1%)であった。

## 平成27年の気象経過（農林技術開発センター）



○6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

